

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 9, No. 4

神奈川県立生命の星・地球博物館

Dec., 2003



丹沢空撮

右手前から中央が、表尾根から塔ヶ岳の登山道。'99年11月撮影。

田中徳久（学芸員）

特別展「丹沢の自然」
2004年1月25日まで開催

『丹沢大山自然環境総合調査報告書』（1997年）の序で、遠山三樹夫調査団長は、昭和22年、最初に塔ヶ岳に立った時、その周辺にはブナ林があり、山頂には風衝草原が存在していた、と記している。当時、すでに山頂周辺には草原が広がっていたが、今とは異なる植物相豊かな自然の草原に近いものであった。しかし、その後、草原は裸地となり、現在の草原はそれが復元されたものである。ブナの林も当時より大

きく後退している。尾根沿いの薄くくすんだ黄緑色の部分がササ原や緑化された場所である。また、奥に見える主稜も含め、そこかしこに崩壊による白い地肌が見えている。崩れやすい山体も丹沢の特徴のひとつであり、大きな問題ではあるが、そこには、ピランジやクロテンコオトギリなど、崩壊地を生活の本拠とする植物が存在するのも丹沢の特徴である。